【遠足（都内巡り）】での活用事例　（中学校第２学年）

【活用した資料】
〇中学校版「心みつめて」　p.10　第一章　「自由とは…」下村　湖人
　　　　　　　　　　　　　p.31　第一章　「約束は…」菊池　寛
〇中学校版「心みつめて」　p.164　第三章　「我が国を愛し、その発展に努める」

【学習指導要領に示されている道徳の内容】
〇　１－⑶「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。」
〇　４－⑼「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」

〇　事前学習で、班別自由行動を成功させるきっかけとして…

　都内巡りを班別自由行動で行う際には、一人ひとりが節度を守り、班員同士で互いに協力して行動できることが重要になります。

　そこで、事前指導の際に、「心みつめて」第１章（p.10）下村湖人の「自由とは…」の言葉を引用し、生徒の指導にあたりました。

　「自由とは完全に無拘束の状態に置かれていることではない。」という言葉を生徒に投げかけ、「自由」の意味を自分の都合のいいように解釈してはいけないことを理解させました。

　社会の中で生きていく上では、時に厳しい制約の中に身を置くこともある。しかし、その中にあっても、自分を高め磨いていく力をもち続けること、それが真の「自由」であることを捉えさせることがねらいです。

　また、都内巡り当日には、出発前に校長が「心みつめて」第一章（p.31）菊池寛の「約束は…」の言葉を引用し、生徒に校外学習の意義について再確認させる講話を行いました。

〇　事後学習では、体験を通して感じたことや考えたことをまとめるために…

　事後学習では、訪問先の見学や体験活動を通して感じたことや学んだことを振り返る時間に「心みつめて」を活用しました。「心みつめて」第三章（p.164）「我が国を愛し、その発展に努める」のページを活用し、自分の意見と他の生徒の意見を記述しながら、訪問見学や体験活動を通して考えたことや学んだ内容を深める時間としました。

　生徒からは、「都内巡りで、東京にはまだまだ私たちが知らない文化や歴史があることを知りました。」「浅草寺や東京スカイツリーなど、東京は古い建物と新しい建物が共に存在している。とても不思議な気がした。東京の文化や伝統を私たちが残していかなくてはならないと強く思った。」といった声が挙がりました。

　地域の伝統と文化から東京の伝統と文化へと広がりをもたせた指導を行うことで、日本の伝統文化や歴史を受け継ぎ発展させていく態度を育むことができました。